



平成 27 年 4 月 24 日

各 位

会社名 三菱商事株式会社
代表者名 代表取締役社長 小林 健
コード番号 8058
本社所在地 東京都千代田区丸の内
2 丁目 3 番 1 号
問合せ先 広報部 報道チームリーダー
磯貝 進(Tel:03-3210-3917)

**当社子会社(日本 KFC ホールディングス株式会社)の平成 27 年 3 月期
通期個別業績予想と実績値の差異に関するお知らせ**

当社連結子会社である日本 KFC ホールディングス株式会社が本日公表いたしました平成 27 年 3 月期個別業績に係る実績数値と予想値の差異について、添付の通りお知らせします。

尚、これによる当社の平成 27 年 3 月期個別業績及び連結業績に及ぼす影響は軽微であります。

(添付) 日本 KFC ホールディングス株式会社の開示資料

以上



平成 27 年 4 月 24 日

各 位

会社名 日本 KFC ホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役執行役員社長 近藤 正樹
(コード番号 9873 東証第 2 部)
問合せ先 経営管理部 部長 野村 聖
(TEL.03-3719-0231)

特別損失の計上及び平成 27 年 3 月期通期の業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、平成 27 年 3 月期（自 平成 26 年 4 月 1 日 至 平成 27 年 3 月 31 日）において、特別損失を計上するとともに、平成 27 年 2 月 5 日に公表しました平成 27 年 3 月期通期の業績予想と実績値に差異が生じたので、お知らせいたします。

記

1. 連結子会社における固定資産の減損損失の発生について

一部の子会社において、収益性の低下による減損損失の兆候が認められたことから、店舗で保有する固定資産及びソフトウェアについて、将来の回収可能性を検討した結果、当連結会計年度において 599 百万円の減損損失を特別損失に計上いたしました。その内訳は、日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社 114 百万円、株式会社フェニックス 481 百万円、ナチュラル・ダイニング株式会社 3 百万円であります。

2. 業績予想と実績値との差異について（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）

(1) 通期連結業績予想

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益 又は当期純 損失 (△)	1 株当たり当期 純利益又は 1 株 当たり当期純損 失 (△)
前回発表予想(A)	85,300	900	800	100	4 円 46 銭
今回実績値(B)	84,605	670	667	△524	△23 円 38 銭
増 減 額 (B-A)	△694	△229	△132	△624	
増 減 率 (%)	△0.8	△25.5	△16.6	—	
(ご参考) 前期実績(平成 26 年 3 月期)	83,436	1,822	1,856	441	19 円 69 銭

(2) 通期個別業績予想

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益 又は当期純 損失 (△)	1株当たり当 期純利益又は 1株当たり当 期純損失 (△)
前回発表予想(A)	4,100	300	900	500	22 円 29 銭
今回実績値(B)	4,664	998	1,108	△983	△43 円 83 銭
増 減 額 (B-A)	564	698	208	△1,483	
増 減 率 (%)	13.8	232.7	23.1	—	
(ご参考) 前期実績(平成 26 年 3 月期)	77,968	1,648	1,703	308	13 円 74 銭

(注) 当社は平成 26 年 4 月 1 日付で事業分社化し、前回発表予想及び今回実績値の数値は持株会社である日本 K F C ホールディングス株式会社の数値を記載しております。また、前期実績値は事業分社化前の数値を記載しております。

(3) 差異の理由

連結業績においては、ピザハット事業において、海外調達品の円安によるコスト上昇の影響、競合の激化に対応した広告費用の増加に伴い、当初予想より差異が生じました。

個別業績においては、子会社からの業務委託料収入増及び配当金収入により売上高・営業利益及び経常利益は当初予想より上回ったものの、ピザハット事業において大幅な減損損失を計上した結果、当社が 100% 保有する子会社株式の実質価値が著しく低下することとなったため、個別決算において 1,666 百万円の子会社株式評価損を特別損失に計上いたしました。当該損失においては、個別決算において計上されるものであり、連結決算においては相殺消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

以 上